

## 第 1 回 小平市福祉のまちづくり推進協議会 会議要録

|               |   |
|---------------|---|
| 開催日時          | 令和 6 年 3 月 2 6 日（火） 午後 2 時 0 0 分～午後 3 時 4 0 分   |
| 開催場所          | 小平市福祉会館 4 階 小ホール  |
| 出席委員<br>(敬称略) | 相川和子、荒井久美子、伊藤智和、井上雅之、金子恵一、小林光明、佐藤隆子、<br>竹内よし子、徳永智子、中山聖英子、福島喜代子、福田早苗、細谷初江、<br>本田祐吉、三島洋、武藤進<br>(欠席者 4 名)  |
| 事務局           | 健康福祉部長、生活支援課長、生活支援課係長、生活支援課担当   |
| 傍聴人           | あり（1 名）   |
| 配付資料          | (1) 次第<br>(2) 資料 1 小平市福祉のまちづくり推進協議会委員名簿<br>(3) 資料 2 小平市第四期地域保健福祉計画【中間見直し版】(概要版)<br>(4) 資料 3 重層的支援体制整備事業の実施について<br>(5) 資料 4 小平市成年後見制度利用促進計画の推進について   |
| 次第            | 1 開 会<br>2 委嘱状交付<br>3 市長挨拶<br>4 委員自己紹介<br>5 事務局紹介<br>6 会長及び副会長の互選について<br>7 配付資料の確認<br>8 小平市福祉のまちづくり推進協議会運営事項の説明<br>9 議事<br>(1) 重層的支援体制整備事業の実施について<br>(2) 小平市成年後見制度利用促進計画の推進について<br>10 その他<br>11 閉 会 |

## 1 開会

## 2 委嘱状交付

## 3 市長挨拶

## 4 委員自己紹介

## 5 事務局紹介

## 6 会長及び副会長の互選について

互選により、会長に福島委員、副会長に竹内委員が選出された。

## 7 配付資料の確認

## 8 小平市福祉のまちづくり推進協議会運営事項の説明

事務局より、協議会の傍聴及び会議内容の録音、議事要録の公開について説明し、承認された。

## 9 議事

### (1) 重層的支援体制整備事業の実施について

事務局が資料2及び資料3を用いて、説明を行った。

事務局説明を受けて、会長から、新しく社会福祉法を改正して作った事業で、行政の縦割りを緩和しながら、色々な機関が連携していく任意事業である重層的支援体制整備事業に小平市も取り組むという事で良いことと説明いただいた。

### 【質疑応答】

委 員： 重層的支援体制整備事業は、重層的支援会議で本人への支援にアドバイスをいただくということが大きなメリットと思っています。お伺いしたいのは、本人同意を得られる場合、本人同意が得られない場合で会議体制も変わってきますが、意思表示を汲み取ることが難しい方の場合、例えば、同意してもらえそうな方だが、言語化して伝えることが難しい方の場合などはどのように判断していくのか教えていただきたいと思います。

事 務 局： 意思表示が難しい方ということで、成年後見制度にも関わる方になるかと思っています。意思表示が難しい方の場合は、権利擁護センターこだいらを紹介するなどの対応も必要と考えております。

重層的支援体制整備事業は新しい取組ではなく、既存の機関が連携して進めていく事

業と捉えておりますので、小平市社会福祉協議会の権利擁護センターこだいら、こだい  
ら生活相談支援センター、庁内の各課などと連携をして取り組んでいきたいと考えてお  
ります。具体的なケースについてはケースバイケースの判断になるものと捉えておりま  
す。

委 員： 2点疑問があるため、質問させていただきます。

1つ目は、新たに実施する重層的支援会議についてです。これは、複雑化、複合化し  
た問題がある時に会議を招集し、対応すると理解していますが、会議を主管する事務局  
はどこになるのでしょうか。それぞれ案件ごとにメインとなる部署が対応するのか教え  
ていただきたいです。

2つ目は、良い事業だと思うため、将来的な全体スケジュールについてお聞きします。  
来年の取組内容、再来年の取組内容など少しずつブラッシュアップすることで、福祉の  
充実度を高めるものかと思います。目標設定や実施内容、評価などの判定基準は色々あ  
ると思いますので、教えていただきたいと思います。

事 務 局： 1点目の事務局の関係です。私どもの生活支援課が取りまとめ部署になっております。  
先ほどから申し上げているとおり、様々な複雑な問題として、8050問題とプラスア  
ルフアの問題、高齢者の方の問題とプラスアルファの問題、母子世帯でお子さんが障が  
いをお持ちで複雑な問題などにおいて、既存の仕組みで対応できるものは、他の部署を  
主として支援検討していただきます。

プラスアルファ部分の問題で、各部署が少しだけ関わり、主の部署がない場合に、ど  
この部署が進めていくのが課題だとされておりますので、それについては、会議を行  
い、役割分担等を決め、お互いに情報連携しながら、支援を進めていくというようなこ  
とで考えてございます。実際にはこだいら生活相談支援センターに会議を開いていただ  
きまして、進めていくということで考えております。

2点目の全体的なスケジュールでございますが、関係課で対応できてしまう場合は、  
会議を開催する必要がなく、必要な案件が出てくれば、様々な部署が集まって情報を共  
有し、関わり方を決めていくということになります。

各部署も責任をもって行っておりますので、困難案件がたくさん出てくるかと言われ  
るとそうではなく、数件程度と想定しておりますが、状況によっては定例化して会議を  
行っていた方が良いなどの課題も出てくると思っております。まずは、事業が走り始  
めるところになりますので、走りながら改善点を検討していきたいと考えております。

委 員： 繰り返しになってしまうかもしれませんが、それぞれの対象の分野で会議体が決まっ  
ているということですが、複合化した方は多いと思います。障がいを持たれたお子さん、  
生活困窮の障がいを持たれている方、高齢の障がいを持たれている方、といった場合は、

コミュニティソーシャルワーカーが取りまとめて、必要に応じて、それぞれの会議体で検討を行うという事でよろしかったでしょうか。

事務局：生活困窮の部署になりますと生活保護担当をしております私ども健康福祉部生活支援課、子ども関係で言いますと子ども家庭部の子育て支援課ですが、障がい者支援課、高齢者支援課、包括担当といった健康福祉部を中心に様々な部署がございまして、各部署が集まって、状況確認して、必要な支援を検討する形で考えております。

会長：質問ではありませんが、本人同意が得られないような複雑な課題を抱えた問題が全国各地にあるものですから、重層的支援体制整備事業では、そのようなケースについて色々な部署の人が一堂に会して、守秘義務をもった状態で会議体を開くというのが、新しく事業を作った一番の目玉でした。

全国の先進的な事例を聞いても、本人同意を得られるようなケースは、関係部署ですでに支援がすすめられており、わざわざプランを立てる必要もないこともあります。一方、本人同意を得られないような複雑なケースは、同意を得られずプランを立てるに至らないことが多いので、地域におけるニーズは、支援会議の必要性があるニーズが多いと学会などの発表を聞いても分かりました。先ほどの事務局からの説明のとおり、先進的にやっている自治体でも、ニーズは年数件で、何十件もあるような状態ではありませんが、そういう難しい事例をきちんと行政が要となって色々な部署の方とやってくださるところが重層的支援体制整備事業の一番の良いところになります。要綱を作るのが大変なのかもしれませんが、要綱を作ってください、社会福祉法に基づく支援会議の方も将来的には、開けるようになったら良いと思っております。

## （２）小平市成年後見制度利用促進計画の推進について

事務局が資料２、資料４を用いて、説明を行った。

事務局説明を受けて、会長から、「議事２の小平市成年後見制度利用促進計画の推進について」では、成年後見制度についての概要説明と、小平市は中核機関の設置や権利擁護支援体制の整備は検討中であるものの、成年後見制度の推進にも関係する重層的支援体制整備事業に着手して、一体的に進めていきたいという内容であったことを説明いただいた。

### 【質疑応答】

委員：中核機関の設置予定について、具体的なプランは出来ているのでしょうか。

事務局：中核機関の設置予定については、現時点で断言できる状況ではございませんが、令和７年度設置に向けて、権利擁護センターこだいらと調整を進めていきたいと考えている

ところでございます。

委員： 2点確認したいことがあります。

1点目は、虐待として認定して良いのか悪いのかわからないことがあった場合に、その状況を吸い上げる環境、発信しやすい環境があるのかなど、小平市での対応がどこまでであるのかというところです。成年後見に関わっている親族の方、後見人の方、社会福祉協議会含めて虐待相当の事例があるのかなというところが心配なところになります。

2点目は、市長申立ての活用というところですが、社会福祉協議会の中でも通常の虐待ではない案件の対応、虐待のような案件の対応などの対応設定はされているかと思いますが、虐待であってもなくても、支援が必要な方がますます増えていくと考えると、スピーディーに臨機応変に進められる環境が欲しいとも感じております。

決められたとおりにやるのが当然だが、それを待っていて良いのかというところも感じているため、虐待への対応と市長申立てのところが、もう少し上手く進んでいけば良いと思っています。

事務局： 虐待は、施設の虐待でしょうか。

委員： 八王子の方の施設でありましたが、施設に入っている方、あとは、親族が受信元となる場合など色々な案件があると思います。そういうものをトータルに吸い上げて対応していただけるような、しっかりした体制を整えていただきたいと思っています。施設の中でも通報する環境、小さい声も吸い上げていける体制があるのか心配です。

事務局： 虐待の対応という事で、高齢施設に入所されている方、障害施設に入所されている方、または病院に入所されている方、様々な環境があろうかと思います。また、ご自分で意思表示ができる方、色々な機関につながっている方など支援者のつながりも様々かと思っています。市役所の部署が担当している場合には、連絡が入り、関連部署で対応となります。

仰っていただいた八王子の病院については、都立、市立など病院も様々であり、東京都と情報連携しながらという形になりますが、おおもとの管轄が東京都になるため、市がやるのは難しい部分はあるのかなというところになります。

ご自分で意思表示ができない方については、なるべく早く後見人の方をつけ、何かがあった時は早急に対応できるようにというところは感じているところになります。

様々な事例があろうかと思いますが、東京都、小平市の各部署含めて対応連携強化という事が重層的支援体制整備事業でも言われておりますので、権利擁護センターこだいら含めて、一步でもより良い制度になるよう検討して参りたいと考えております。

委員： 虐待らしき状況は、病院や施設でもあるかもしれませんが、本人の親族から行政の関係者、社会福祉協議会の関係者、後見人などに向けられる虐待というか攻撃もあります。虐待が本人に向かっているだけではありません。結果的に本人への虐待に向かってしまうのかもしれませんが、本人に向けられる虐待と支援している人に向かっている攻撃もあります。虐待を病院などに限定されると困ってしまうので今後検討いただけるとありがたいです。

事務局： 施設や病院は虐待をキャッチしやすい状況になります。また、虐待防止法等でもその役割が載っておりますので、非常に小さいところから対応していくことが可能かと思えます。

例えば、ご家族で行われる虐待を自治体でキャッチするのは難しいという課題もございます。そういうものが市に届けば、市でどういった支援ができるのか、重層的支援体制整備事業も含めて検討が可能になります。病院以外については、市としてどこまでできるのかということを含め、課題として研究していきたいと考えております。

事務局： 2点目の市長申立ての件です。市長申立てにおいても困難案件が出てきている状況がございます。今後、どういった対応をしていくかについても、研究や検討が必要と考えております。小平市成年後見制度利用促進計画の「地域で連携して支えるネットワークの構築」の要素にもなろうかと思いますが、今後とも専門職の方にご助言いただける機会を活用しながら、また、助言をいただく場も含めて検討していきたいと考えております。

会長： 委員は、本人へも危害が及ぶかもしれないが、支援を必要とする方を取り巻くご家族やご親族からも攻撃があつて困っているという事を仰ったのだと思います。

複雑困難な対応が必要な事例なので、これまで都の保健所なども関わってくださっていたところかと思いますが、地域レベルで直接対応するようにという方向へ進んできています。そのため、重層的支援体制整備事業、特に本人同意を得られないので、関係機関が集まり、ようやくそれに対応する機運がみえてくるという事例になるかと思えます。ネットワークを充実させていただき、本人同意を得られなくても話し合いが進むような体制を作ってもらふことが必要かと思えます。

特定の方が虐待という対象になっている場合には、法律に基づいた通報をすれば、市役所の各部署が対応することになっていると思います。そのように見えないものが難しいと思いますのでお願いします。

副会長： 虐待と言うことで事例ですが、民生委員が訪問した際に虐待を受けている相談を受け、関係機関へつなげたことがありました。関係機関はすぐに動き、ケース会議を開いてく

れました。そして、訴えがあった家庭に訪問に行き、事情を聴く対応をしてくれました。そこで、奥さんも虐待を受けていたとの話も聞けましたが、よくよく話を伺ったところ、誤解があった点多々あったとのことで、息子も話に加わり、認知症もあったことから、決定的な虐待とはならなかった事例ではありました。

委員： 成年後見制度利用促進の関係では、成年後見制度全体の利用促進を図る体制と位置付けられていると思いますが、どうしても既に認知症などになってしまった方たちをどのように支援していくかという事が非常に多く、そこに対する法定後見制度の対応で一杯一杯になってしまいがちな現状になります。任意後見制度含めて認知症になっていない段階の方たちの将来への不安にどう応えていくかを忘れないでいただきたいと思います。

団塊の世代の方が高齢者になってきたということもあり、現在、相談が爆発的に増えています。将来、自分が認知症になってしまった時に向けた相談で、身寄りがいない方、お子さんがいない夫婦、独居の方などが認知症になった時にひどい目にならないよう早めに動き出すというケースが増えている状況になります。中核機関でも対応すべき課題であるとされているため、そこは対応していただきたいと思います。

事務局： これまでも、権利擁護センターこだいらでは、成年後見制度の周知や広報活動を行っていただいているため、引き続き、ご指摘の視点を含めて、権利擁護センターこだいらと連携して広報にも力を入れていければと思います。

会長： 権利擁護センターこだいらの方で任意後見制度について、周知してきていることなどはございますか。

委員： 任意後見制度の件につきましては、現状として積極的にというところは足りていないという現状ではございますが、年4回開催している市民向けの成年後見基礎講座の1枠で任意後見に関する講座を行っております。

また個別に団体から相談やミニ講座の依頼を受けた場合には、できる限り対応を行っているのが現状でございます。将来の不安に備えたいという相談は権利擁護センターこだいらでも増加傾向にあるため、今後の課題になるのかなと考えております。

先ほど委員からあった虐待の件ですが、虐待が云々よりかは、権利擁護センターこだいらで感じていることをお伝えしたいと思います。

権利擁護センターこだいらでは、成年後見制度を利用したいという市民に対して申立ての支援を行っております。現状では専門職の後見人が就くケースが多くございまして、専門職の方に就任いただき、活動いただいておりますが、経過が長くなっていくと関わっていた関係機関が後見人の方に後はお任せしようという傾向になるケースもたまに見

受けられます。ただ、そのような時に課題が起きると迅速にチーム形成が図りにくいというケースも拝見しております。

そういうときに重層的支援体制整備事業や既存の会議を使えるようになれば、地域で活動される後見人等の皆さまも安心してチームケア、後見活動ができるのではないかと思いますので、重層的支援体制整備事業の今後に期待しているところになります。

会 長： 資料2の5ページにあるような連携の状況が早く形になることが求められていますが、東京都の場合は、地域福祉権利擁護事業の推進機関の役割が市町村の社会福祉協議会に求めておられるので、既にこれに近い形が位置付けられている状況だと思います。

国では、成年後見制度利用促進基本計画や成年後見制度利用促進法で早く中核機関を位置付けて体制を整えるよう行政としての期限を設けておりますが、小平市は遅れているというところなので、早めに整えていただいた方が良いと理解しております。

ただ、資料4の2ページの1番下にある成年後見制度において、申立て件数の40件中、市長申立てが24件あることは素晴らしい実績で、高齢部門、障がい部門などの行政関係部署が取り組んでいただいているため、本当に必要な方への市長申立ての取り組みは、全国的な取り組み件数と比較すると、きちんとされていると認識させていただいております。

先程、委員が仰っていたように市長申立てをせざるを得なくなる状況になる前に任意後見などが済んでいると、本人の意思に沿った生活が担いやすくなるということが分かっているので、より多くの市民の方に伝われば良いと思います。

委 員： 市民後見人の養成というのは、現在の進捗状況としてどのような状況なのでしょう。登録人数や、後見業務に関わっているのかについても教えていただければと思います。

会 長： 権利擁護センターこだいらからのお応えの方が良いかと思うため、お願いします。

委 員： 小平市における市民後見人の養成につきましては、近隣7市合同で隔年行っております。今年が市民後見人の養成の年であれば、来年は市民後見人のフォローアップの年としております。

東京都が養成していたものを市が行うことになった経緯になりまして、養成者の累計については、手持ち資料がございませんが、登録者は15名、昨年養成した2名の方を含め、現在は17名の方が登録者として名簿に掲載されております。過去含めて受任経験がある方は延べ7名おられ、現在受任中の方は2名おられます。

実際のところとしましては、市民後見人に該当する案件とのマッチングがスムーズにっていない場面もあり、今後の課題と考えております。成年後見制度利用促進計画にも市民後見人の活躍の場を推進と書かれており、受任にこだわらず、他の活躍の場を模



索中になります。ちなみに法人後見も行っており、現在は2件受任中でございます。

会長： 市民後見人の養成は、東京都や東京都社会福祉協議会を中心に積極的に行われていた時期がありましたが、受任後のトラブルもあり、現在は事実上、社会福祉協議会が後見監督人になってくれる方を裁判所が選任する現状となっております。

厚生労働省の会議の話になりますが、厚生労働省から家庭裁判所に働きかけをして市民後見人の受任の環境が整うように進められてはいます。

また、成年後見制度の法律が変わることを前提に第二期成年後見制度利用促進基本計画が策定されております。現在は、後見人が一度受任すると一生継続という制度になりますが、難しさや困難さがあるため、このような制度を変えられないかという事が国レベルで検討されている状況になります。

成年後見制度に興味をもって地域のために働こうと考え、市民後見人の養成講座に参加してくださる方がおられますが、なかなか受任がないため、社会福祉協議会等で工夫し、地域福祉権利擁護事業のお手伝いをしていただいていることも多い状況になります。

私も7市合同のフォローアップ講習の講師を担当させていただいております。

会長： まだ、時間があるため、ご発言のない方に地域保健福祉計画や福祉のまちづくり計画についての思いなどを一言いただいても良いでしょうか。

委員： はじめての参加で、これまでの話を聞いていて自分は何をしたら良いのかと思いました。次回の協議会は1年後ということですが、本日の議題がどのように進むのかを見ていけば良いのでしょうか。

会長： 質問は、最後にまとめてお答えをさせていただきたいと思います。

委員： 分からない部分も多々ありますが、現状困っている方々がジャンルをまたいでいて、一つの部署で解決できないところを複合的に対応していくということが行われているということが少しずつ理解できるようになりましたので、引き続き、色々なお話を聞ければと思っています。

委員： 基本的に言葉が難しいと思っています。

「重層的支援体制整備事業」は、関係者で話すには分かりやすく良いのかもかもしれませんが、困っている方や一般の皆さんに理解していただけるものなのかと思います。

「包括支援センター」の名前も同じですが、市民の皆さんにはわかりにくいと思っています。

分かりやすい言葉に変えられるものは変えながら、ご理解いただけるような努力を少

しずつでもすべきと常々思っているところになります。

委員： 日頃から手話通訳及び手話サークルのメンバーとして聴覚障害者の方と接する機会が多いのですが、聴覚の障がいを持ちながら高齢者となり、身寄りもなく、制度の谷間でお困りの方がいらっしゃるため、どのようにつなげていけばよいのかというのを会議に参加させていただき、感じました。

委員： 大学生で分からないことがたくさんありますが、後見人が1人に対して1人就くと想像しています。後見人となる市民後見人の方や専門職の方が足りているのかもわかりませんが、もし足りているのであれば、1人に対して2人が就くなど市民後見人の方と専門職の方が協働する制度があれば、市民の人も後見人をやってみようかなという気持ちが湧くのではないかと思います。

会長： 複数後見のところは、後程説明をいただきたいと思います。

委員： 薬局という立場で色々な話を聞くことがありますが、結局どこにいても誰も助けてくれないという話を伺います。重層的支援体制整備事業が充実していくことで、そういった方を救えることがたくさん出てくるのかなと思いました。

相談先としては、生活支援課に相談すれば良いのでしょうか。今はケアマネージャーに相談し、つないでもらっている状況になります。薬局として、市の生活支援課につながぐことも、今後あるのかなと感じたところです。

会長： つなぎ先については、後程、まとめてお応えいただこうと思います。

委員： 定年までは民生委員もさせてもらっていたので、成年後見制度については勉強させてもらっていました。高齢クラブでは80歳代がほとんどの会員で年を重ねてくると活動もできなくなるという状況があり、現在色々な問題があります。小平市も高齢者施設が多くできており、息子のところに行くと思ったら、高齢者施設だったということも多々あります。そういった問題を抱えながら高齢クラブで関わりを持っていますが、問題があった時は地域の民生委員へつなぐのが一番良いと思っており、民生委員が行政につないでいただけたらと思います。

今日の会議を踏まえて、会長会に報告したいと思います。

委員： 地域包括支援センターは、65歳以上の方の総合相談の窓口ということで、相談がありますが、そこに一緒に住んでいる65歳未満の方の相談や、複雑化・複合化した相談が増えてきているように思います。

今日も小平市にお母さまが住んでいて、他市に娘さんが住んでいるが、娘さんは精神疾患があるのにどこにもつながっていないため、親としてどうしたら良いのかという相談がありました。お母さまはパワーレスなのでこちらが支援をしないといけないが、娘さんは他市であり、他市の行政支援が必要なため、他市の行政機関に働きかけをして、どうしていくか話をしたところになります。

地域包括支援センターでは、個別ケースの地域ケア会議という形で他部署に働きかけ、話をしてきておりますが、重層的支援体制整備事業ができることで、ワンストップとして対応力の向上につながれば、対応もスムーズに進むと思うので、充実するように進めていければと思っております。

会 長： いくつか質問がありました。次の協議会までどうしたら良いのか、複合的な相談をどこに相談したら良いのかというところについていかがでしょうか。もちろん、民生委員も相談先になりますが、それ以外でどうでしょうか。

事務局： 本協議会につきましては、重層的支援体制整備事業のご説明で冒頭申し上げましたとおり、また、公募委員募集の記事にも記載させていただいたとおり、地域福祉、福祉のまちづくりを総合的に推進するために法改正や社会情勢の変化などの情報共有、皆さまが地域で生活されている中で感じていることなどのご意見をいただきながら、福祉のまちづくりについて議論を行う場とさせていただいております。

現在、複雑化・複合化した課題への対応というのが、多く取り上げられており、そこに対する市の取組として重層的支援体制整備事業の実施があることから議事とさせていただきます。議事に対して、地域での活動を通して感じていること等のご発言をお願いしたいと思っております。

続いて、相談先としてつなぐ場所についてですが、地域包括支援センターなど既につながっている場合がある場合は、そちらをご案内いただければと思います。

また、ご案内する先に迷われる場合には、こだいら生活相談支援センターを複雑化・複合化した相談を受け止める窓口として、重層的支援体制整備事業で位置付けておりますので、小平社会福祉協議会こだいら生活相談支援センターをご案内いただければと思います。こだいら生活相談支援センターでは、相談窓口として受け止めた後、支援者を集めた重層的支援会議にて支援計画を考えていく体制を考えておりますので、お困りごとがあれば、こだいら生活相談支援センターのコミュニティソーシャルワーカーにご相談いただければと思います。

会 長： コミュニティソーシャルワーカーについては資料2の2ページに紹介されており、重層的支援体制整備事業の委託先になっているかと思えます。市が要となり、市とともに社会福祉協議会の部署が活動していると思えます。

高齢者については、地域包括支援センターが市内圏域で活動しておりますし、世代を問わない対応をされる民生委員もおりますし、社会福祉協議会のコミュニティソーシャルワーカーへのつながりも適切かと思えます。

続いて、複数後見などについての質問に対する説明をお願いしますでしょうか。

委員： 後見人は1人に対して1人就くのが基本になります。法人後見というのがありましたが、グループで対応する場合も、1人か2人の体制となります。

後見人が足りているかというと、足りていない状況になります。弁護士会も、司法書士会、社会福祉士会などの専門職もニーズに対して足りていない状況になるため、市民後見人の活躍やご親族による後見も希望しています。

複数後見として、複数の後見人が就く場合もあります。市民後見人と専門職が就き、慣れたところで市民後見人が1人で後見業務を行っていく場合もありますし、市民後見人の方が心配なので、後見監督人が就く場合もあります。

## 10 その他

事務局から、今後の協議会の日程について説明を行った。

## 11 閉会